

2025 年 7 月 16 日(水) ハコラク 8 月号 掲載

医療の現場から『カプセル内視鏡検査とは～カプセルを飲むだけの超低侵襲内視鏡検査～』

臨床工学科 田中 裕介 臨床工学技士

カプセル内視鏡検査とは ～カプセルを飲むだけの超低侵襲内視鏡検査～



函館中央病院

臨床工学科 臨床工学技士

田中 裕介 さん

近年、日本では難病である炎症性腸疾患（IBD）の患者さまが10代後半～30代で増加傾向にあります。IBDは小腸や大腸などの消化管に炎症が起こり、将来的ながん発生のリスクが増加する可能性がある病気です。診断には胃カメラや大腸カメラと呼ばれる内視鏡検査が必要で、喉の麻酔や大量の水（下剤）を飲んで腸をきれいにする処置が必要となり、「つらい」「苦しい」「痛い」「恥ずかしい」などといったネガティブ

なイメージが強く、検査に踏み切れない方も多くいらっしゃるかと思います。そこで、負担の少ない検査として注目されているカプセル内視鏡検査をご存じでしょうか。文字の通りカプセル型（大きめのビタミン剤ぐらい）の内視鏡です。身体にセンサーを数個と記録装置を取り付けた後、自らカプセルを飲み込んでもらうだけの簡単な検査です。撮影した画像は、自動的に無線で記録装置へ送ら

れます。飲み込んだカプセルは便と一緒に身体の外へ排出されます。従来の内視鏡検査では難しい、細長く曲がりくねった小腸の観察が可能となります。加えて苦痛が少なく、原因不明の出血や潰瘍（かいよう）、ポリープの発見などの観察が可能です。ただし、ポリープを切除したり、出血を止めることはできませんので、改めて従来の内視鏡を挿入して治療を行う必要があります。最近は大腸のカプセル内視鏡検査を行っている施設もありますが、従来通り腸をきれいにする処置は必要となります。

検査は8時間ほど掛かりますが、カプセルを飲んで1～2時間後には病院を出て、日常生活に戻ることが可能です。検査中は2～4時間の食事制限以外に特に制限はありません。適度に身体を動かすほうが腸の動きが良くなり、カプセルの動きがスムーズになります。検査費用は保険3割負担の方で300000～350000円ほどで行うことができます。カプセルを飲むことができれば、お子さまでも受けられる内視鏡検査です。一度お近くの医療機関にご相談されてはいかがでしょうか。